



3～4月の親潮面積が最小を記録しました

例年、親潮は春に三陸沖まで南下し面積も最大になりますが、今年3～4月の親潮面積は平年よりかなり小さく、1982年の統計開始以降で最も小さくなりました。

親潮は、千島列島に沿って東北地方の太平洋沖まで南下する寒流です。豊富な栄養塩を含み、豊かな漁場を育むことから、その消長は北日本の水産業等に大きな影響を与えます。

親潮の広がりには季節変化があり、例年では、面積^(※1)は11～12月頃に最小となり、3～4月頃に最大となります。

2020年3～4月の親潮面積の平均は、 4.7×10^4 km²であり、1982年の統計開始以降の39年間で最も小さくなりました。これは平年の3～4月の親潮面積 (13.4×10^4 km²) の35%になります。

親潮面積の順位表

(小さい方から)

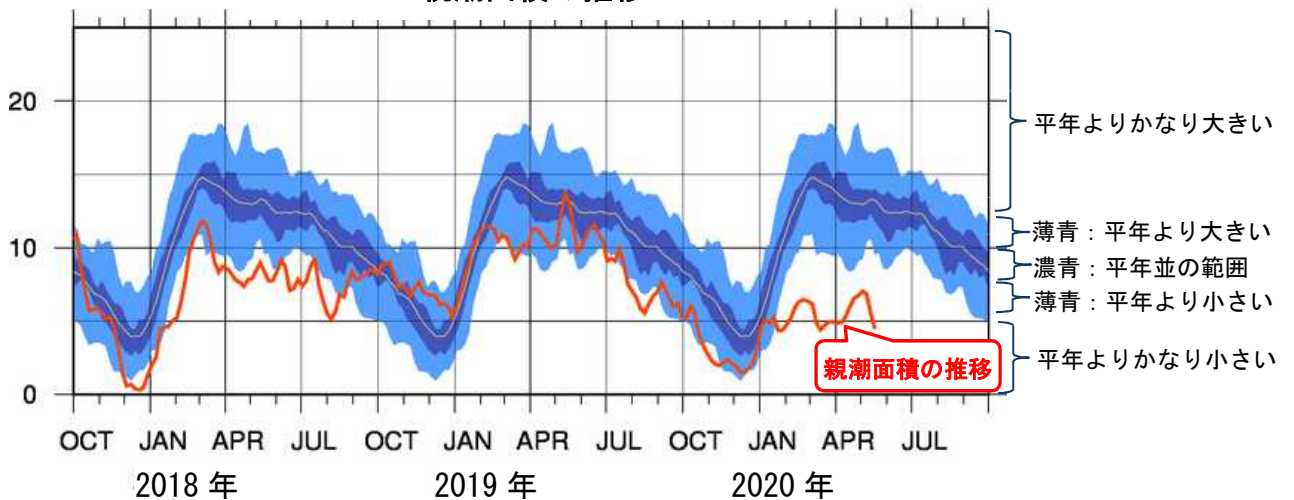
| 順位 ^(※2) | 年 | 面積 ^(※3) |
|--------------------|---------------|--------------------|
| 1 | 2020 | 4.7 |
| 2 | 2016 | 7.8 |
| 3 | 2009 | 7.9 |
| 4 | 1990 | 8.1 |
| 5 | 2000 | 8.2 |
| 平年 | 1982～2010年の平均 | 13.4 |

※2 統計期間：1982～2020年（観測データに加え海洋大循環モデルを用いた解析値）

※3 3～4月の親潮面積の平均（ $\times 10^4$ km²）

面積（ $\times 10^4$ km²）

親潮面積の推移



※1 親潮面積：東経141～148度、北緯43度以南の海域における、深さ100mの水温が5℃以下の領域の面積



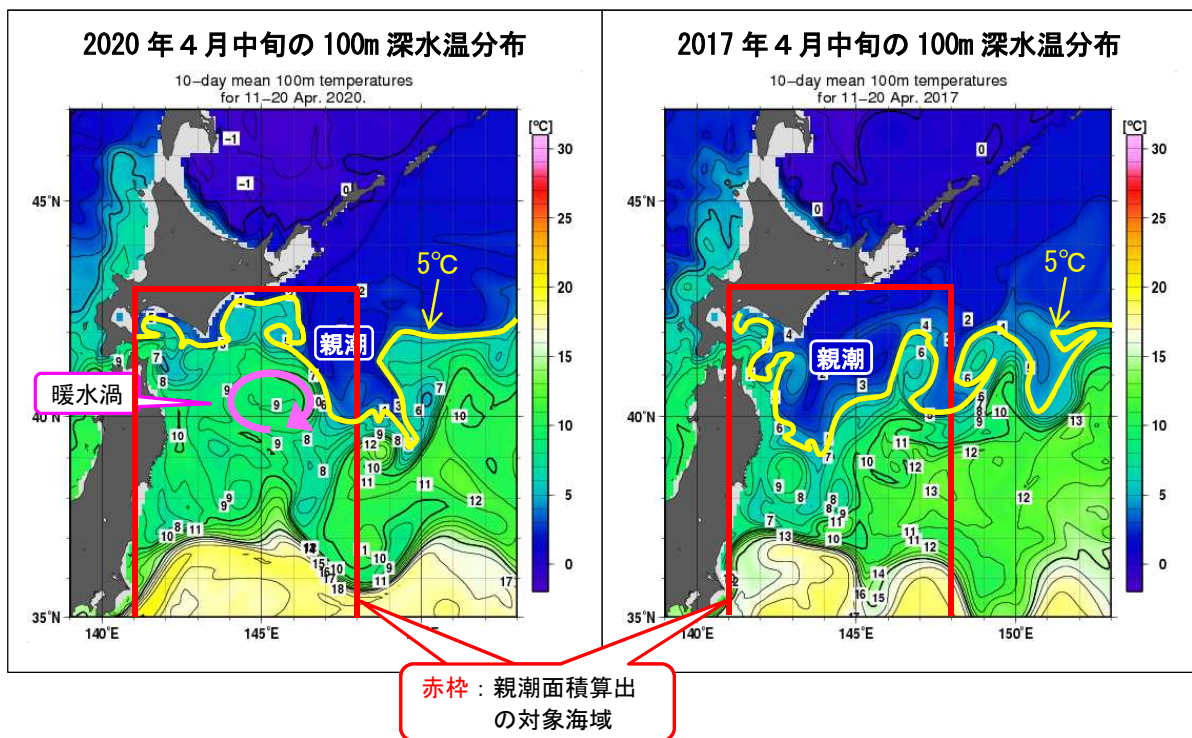
今年1月以降、親潮面積はほとんど増加しておらず、例年では親潮面積が最大となる3月以降も、依然として1月頃と同程度の面積となっています。

親潮面積がかなり小さくなった原因には、三陸沖の暖水渦の存在が挙げられます。この暖水渦によって、釧路沖を南下する親潮が東北地方の沿岸へ流入しにくくなっているためです。

なお、親潮面積は今年2月から平年よりかなり小さい状況が続いており、向こう1か月は、この状況が続く見込みです。

親潮の南下状況

- 今年と2017年(平年並)との比較 -



東北周辺海域の海面水温や海流の詳細については、気象庁ホームページの「海洋の健康診断表」をご覧ください。

「海面水温・海流（東北周辺海域）」：

https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/f_2/jun_SN/kaikyo_SN.html

問合せ先：仙台管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

担当：大門・橋本 電話：022-297-8107 FAX：022-291-8110